

静岡県の環境への取り組み (静岡県版レッドデータブック)

静岡県くらし・環境部
環境局自然保護課



静岡県版レッドデータブックとは

《静岡県版レッドデータブック》

⇒ 県内の絶滅のおそれのある「種」を解説したもの

(役割・目的)

- ① **県内**の実情にあった希少種の**位置づけ**
- ② 希少種の**基礎データ**（種類、生息場所、特性等）
- ③ 自然環境の劣化**状況の把握**
- ④ 自然保護意識の**普及**



希少度合いに応じた保護方針

静岡県版**レッドリスト**（H15.4⇒H29.10）

⇒種名とカテゴリーのリスト

静岡県 レッドリスト

検索

（抜粋）

カテゴリー		種の個体数の減少に対する保護方針	対応
絶滅危惧	I A 類	影響及び要因は最大限の努力をもって排除する必要	回避を原則
	I B 類	影響及び要因は軽減又は排除する必要	回避又は低減を原則
	II 類	影響及び要因は最小限にとどめる必要	低減を原則
準絶滅危惧		影響は可能な限り生じないように注意	低減又は代償措置を原則

希少
度合い

高

静岡県版レッドデータブック等

◇静岡県版レッドデータブック動物編

(H16.3⇒H31.3)

⇒哺乳類, 鳥類, 爬虫類, 両生類, 淡水魚類, 昆虫類,
陸・淡水産貝類+クモ類 (新規)



◇静岡県版レッドデータブック植物・菌類編(H16.3⇒R02.3(予定))

⇒植物+菌類(キノコ類) (新規)

◇静岡県版レッドデータブック普及版 (H16.3⇒R02.3 (予定))

⇒レッドデータブックの普及書

◇静岡県野生生物目録 (H17.3⇒R02.3 (予定))

⇒普通種を含めた県内確認種一覧

改訂版レッドデータブックの特徴

◇学術的価値の向上

国内第一級の学者に監修を依頼

◇写真・分布図の掲載

掲載種(ほぼ)全種の写真・分布図を掲載

◇生活史の記載

繁殖情報など詳細に解説

◇減少要因の分析

減少要因をタイプ別に区分

◇電子版をHPで公開

静岡県 レッドデータブック

検索

ヤマトイワナ *Salvelinus leucomaenis japonicus* Oshima, 1961 サケ科 Salmonidae

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 IA 類 (CR) / 西部・中部 絶滅危惧 IA 類 (CR) (要件①②③) 変更コード 7
[2004 年版カテゴリー 絶滅危惧 IB 類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説
サケ科魚類のイワナ *Salvelinus leucomaenis* の亜種。他の亜種は体側背部を中心に多数の白い斑点を終生にわたってもつが、ヤマトイワナは白い斑点が目立たず、とくに背部には全くないものが多い。体側下部を中心に橙色の有色斑点をもつ個体が多いが、地域によって差があり、全く斑点がない集団もみられる。なお、幼時には白い斑点を有し、成長とともに背側は消失し、腹側は有色斑点に変化していくものが多い。

2. 分布
日本固有亜種で、富士川または相模川から紀伊半島までの太平洋側の河川の源流域に分布し、県内では大井川と天竜川の上流域の本支川に分布する。

3. 生息環境
夏季の最高水温が約 15℃以下の大河川の源流域に生息し、大井川では標高 2,000 m 以上の源流域にも生息している。春季には水生昆虫も利用するが、夏季などの活動期には陸生昆虫が主食となるため、流域の豊かな植生も生息条件として重要である。

4. 生息状況
現在、県内で生息が確認されているのは、大井川と天竜川の上流の本支川の、ごく少数の河川の最上流域の一部に限られている。現在、1980 年代まで確認があったいくつかの河川では生息が途絶えた。

5. 減少の主要因と脅威
電源開発 (25) や林地開発 (11) によって生息環境が悪化してきているが、最も重要な問題は、別亜種の放流に伴う遺伝子汚染である (57-1)。渓流釣りが盛んな河川では、増殖事業や個人放流によってニッコウイワナなどの外来イワナが放流され、交雑することにより在来のヤマトイワナが著しく減少している。

6. 保護対策
外来イワナの遺伝子を完全に除去することは困難で、大井川水系では、現時点で純粋な在来集団の特徴が外部形態・遺伝子とも明確でない。外来イワナの放流と分布拡大を完全に防止したうえ、在来集団の特徴と識別方法を釣り人などに周知し、外来イワナの特徴を有する個体を選択的に除去していくべきである。また、在来集団の保護・増殖のためには、種苗放流をやめ、産卵場造成などの手法を採用するべきである。

7. 特記事項
紀伊半島のヤマトイワナ (キリクチ) は、環境省レッドリストの「絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)」に選定されている。

8. 主な文献
後藤裕康 (2010) ヤマトイワナ。NPO 静岡県自然史博物館ネットワーク 編、しずおか自然史, pp. 246-247. 静岡新聞社、静岡。
川合範明・中村水介・植松久雄・加藤博之 (2006) 2004 年夏季の大井川源流におけるイワナの食性。静岡県水産技術研究所研究報告, 41: 21-28

9. 標本
ふじのくに地球環境史ミュージアム魚類資料 (SPMN-PI)、近畿大学農学部 (FKUN 35409)
(後藤裕康・板井隆彦・川嶋尚正)



大井川水系又川 2009 年 10 月 15 日 後藤裕康

○ 2003 年以前
● 2004 年以降

静岡県版レッドデータブック普及版

県内の多様な生物に興味をもつきっかけになる本（を目指して作成中）

奥山に住む生物

ਯਮੁਨਾ



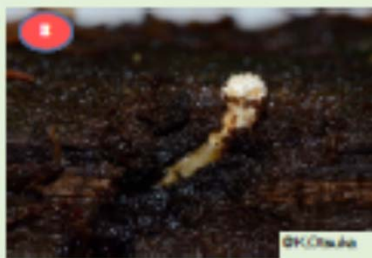
深山のブナ林などの林下に生育し、しばしば野生しますが、奥内では個体数は少ないシダ植物です。生育地の山林伐採などによる、生育環境の変化が生育への脅威となっています。

キタダケオドリコソウ



標高 1,400~2,300 m の、沢筋の林縁や草地の湿ったところに生えます。雨冠の剥落や土砂による流失が主原因ですが、林道開削による環境変化も脅威です。

フトクビク手キムシタケ



共生環境である冷涼かつ湿度の高い広葉樹林の樹種転換に伴う伐採などで、共生環境が悪化するという警報があります。

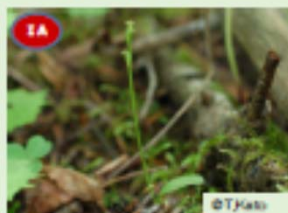
才才力求手々々々



冷温帯上部の自然林内で、ミズナラの幹の傷口から侵入して、材を白色腐朽して生育しています。伐深による自然林内のミズナラの減少が本種の生育への脅威となります。

【第1の危機】これらの生き物は、開発、伐採などにより、生息・生育環境が破壊され、減少したと考えられています。

創業上の力争ゴリ一社●●●



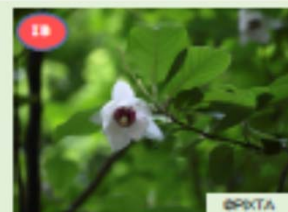
ミスズラン



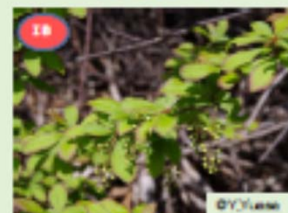
オオカラムツ



コマイワヤナギ



オオヤマレンゲ



ヒロハヘビノボラズ



手シマネコノメソウ



ヒメスミレサイシン

開発・乱獲

耕作放棄

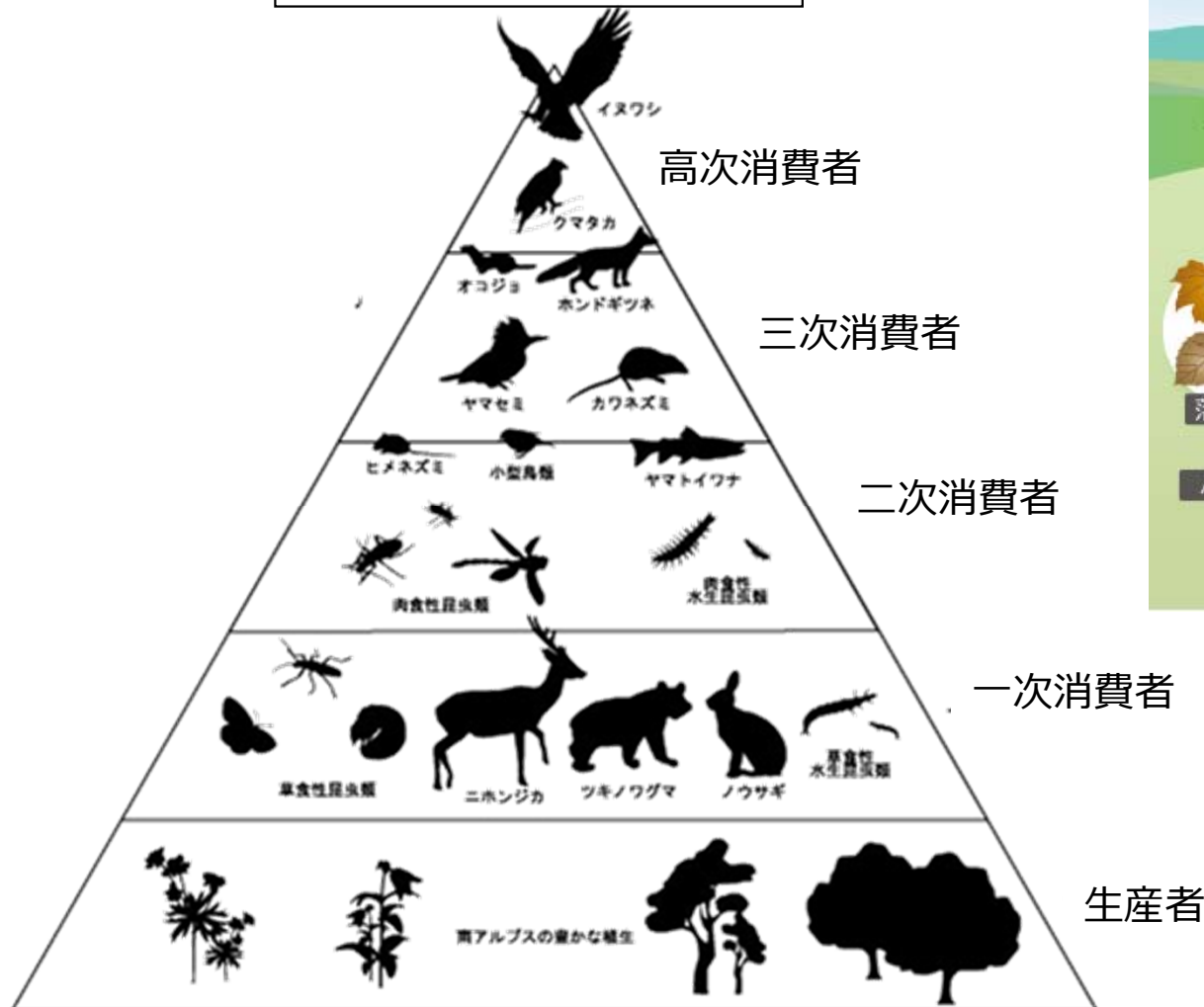
外来種問題

地球温暖化

(イメージ)

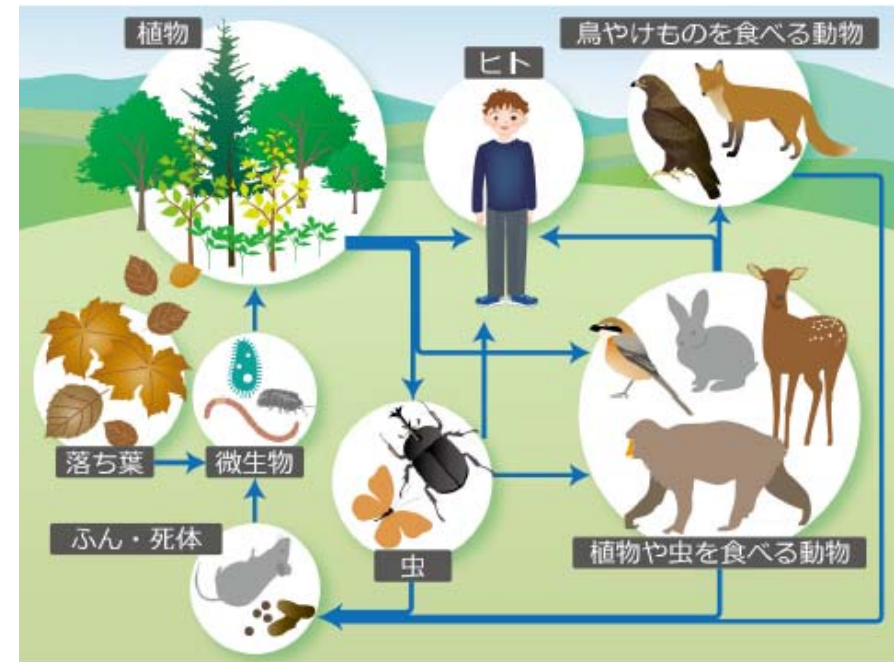
多様な生物のつながり

生態系ピラミッド



南アルプスの食物連鎖模式図

出典：南アルプスユネスコエコパーク管理運営計画《静岡市域版》



生態系は複雑な
関係で成立
⇒ **普通種も重要**

生物多様性＝3つの多様性

遺伝子の多様性



種の多様性



生態系の多様性



遺伝子や生態系の多様性も重要



ふじのくに生物多様性地域戦略

生物多様性の保全と持続可能な利用に向け、
県民みんなで取り組む方向を示すガイドライン

**100年後,1000年後にも
自然と人が共生できる
静岡県を目指しましょう**



生物多様性シンポジウムを開催します

日時: 令和2年2月22日(土) 13時30分～16時15分

会場: 静岡県総合研修所
もくせい会館 富士ホール
(静岡市葵区鷹匠3-6-1)

山岳ランナーで有名な、
望月将悟さんもシンポ
ジウムに参加します!!



第1部

生物多様性についての特別講演会



【講演】

テーマ「生物多様性って何だろう？」

(講師) **岩槻 邦男 氏** 東京大学名誉教授

<講師紹介>

静岡県レッドデータブック改訂監修委員

【略歴】

- ・兵庫県出身。理学博士
- ・京都大学教授、東京大学教授等を歴任
- ・専門は植物分類学
- ・文化功労者(2007年)

第2部

シンポジウム

テーマ「南アルプスにおける生物多様性」

- ◆ 岩槻邦男 氏 (東京大学名誉教授)
- ◆ 望月将悟 氏 (山岳ランナー)
- ◆ 静岡ライチョウ研究会
- ◆ 高山植物保護ボランティアネットワーク

詳しくは、本日配布したチラシを参照
ぜひ御参加ください!!

